

# 第6回齋藤茂太賞受賞作家 による新作のテーマは「雪豹」！

ヒマラヤの山奥深くに棲まう幻の獣、雪豹。  
野生下では目撃することすら極めて困難な姿を、高確率で見届けられる地があるという。



スピティ、冬に生きる

# 雪豹の大地

←雪豹の姿は、設置型のカメラでようやく撮影が可能なので、肉眼では滅多に捉えることができない。本書の写真はすべて著者自ら構えたカメラで撮影に成功した、学術的にも価値のあるものばかり

新刊予約

4月22日  
搬入予定

紀行文  
理工(動物・自然)  
ノンフィクション  
ご担当者様

「撮れるさ、スピティでなら。百パーセント、必ず撮れる」  
写真家は、知人のこの不確かな情報だけを頼りに、  
インド北部のチベット文化圏、スピティに旅立った!

標高4200メートルの極寒の高地。自然の摂理の中、雪豹、狼、狐、アイベックスなど、狩る者と狩られる者の命のやりとり。その傍で、大いなる存在への畏れと祈りとともに暮らす人々。ひと冬の間、彼らとともに過ごした日々の中で、写真家が巡り会ったのは……。『冬の旅 ザンスカール、最果ての谷へ』で第6回「齋藤茂太賞」を受賞した気鋭の著者による、待望の書き下ろし長編紀行。母親を亡くした幼い双子の雪豹の狩が上達する過程、狼たちと高齢の雄の雪豹のにらみ合い、血のにおいに誘われた大きな翼を持つ禿鷲や燃えるような赤毛の狐など、野生動物とそれを見つめる現地の人々との関係を生々しく描き切る。雪豹はもちろん、頬に剣を突き刺し神を降ろすスピティの祭礼や高地の村の様子など、臨場感溢れる貴重な写真の数々も収録。



## 山本高樹（やまもと・たかき）

著述家・編集者・写真家。2007年から約1年半の間、インド北部のラダックを中心としたチベット文化圏に長期滞在して取材を敢行。以来、この地域での取材をライフワークとしながら、世界各地を飛び回る日々を送っている。主な著書に『ラダックの風息 空の果てで暮らした日々【新装版】』『ラダック旅遊大全』（雷鳥社）、『インドの奥のヒマラヤへ ラダックを旅した十年間』『旅は目く、時々苦い』（産業編集センター）など。『冬の旅 ザンスカール、最果ての谷へ』（雷鳥社）で第6回「齋藤茂太賞」を受賞。

文・写真 山本高樹  
価格：2,420円（本体2,200円＋税）  
仕様：A5判変型／並製／4C・1C／256P  
ISBN：978-4-8441-3813-6 C0026

3冊以上のご発注につき、  
拡材各種ご用意いたします！

POP・A4パネル  
特製しおり

※ご希望の拡材を○で囲んでください

## 雪豹とは？

ネコ科ヒョウ属。絶滅危惧種レッドリストでは応急種（絶滅する恐れが高い）に登録されている。全世界での推定生息数は8000頭未満。

注文切：4/13(日)

## 新刊委託

帳合・貴店名

ご担当者名

雷鳥社  
RAICHOSHA

FAX 03-5303-9567 ※おかけ間違いにご注意ください。  
〒167-0043 東京都杉並区上荻2-4-12 TEL 03-5303-9766  
MAIL info@raichosha.co.jp

冊